

2025年度前期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強く思う | (非常に良い) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目名：基礎看護学実習 I（療養生活の理解）

（看学科第 1 学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.8	4.5	4.6	4.2	4.7	4.6	4.5	4.5	4.7	4.7	4.7	4.8

*評価に対するコメント

基礎看護学実習 I（療養生活の理解）担当教員

今年度は予定通りの実習方法で病棟実習を行うことが出来ました。全員が予定していた病棟実習の体験ができたことは、皆さんが体調管理を徹底していた結果の表れだと思います。実習の満足度は 4.8、看護職を目指す意欲も 4.7 の評価であり、これから看護を学んでいくモチベーションが上がる実習企画だったようで、嬉しく思います。

科目名：高齢者看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：45 回収率：75.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.3	4.4	4.4	4.6	4.5	4.4	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5

*評価に対するコメント

高齢者看護学実習担当教員

今年度は新カリキュラムとなり、実習は3単位へと改編された。また、諸事情により大学病院と外部施設での実習となった。そのため、通学方法や学習内容に差が生じないよう学内実習で補い、企画した。その結果、学生評価の全項目で昨年度よりも高い評価が得られた。コメントには、看護過程の指導やカンファレンス運営の改善、交通費助成の要望、看護技術の実施機会を望む意見があった一方で、多くの学びを得られたという満足度も示されていた。以上より、一定の成果は得られたと考えるが、運営方法には改善の余地があり、今後はさらなる工夫により実習内容の充実を図りたい。

科目名：小児看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：44 回収率：73.3%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.5	4.5	4.5	4.7	4.7	4.6	4.4	4.8	4.9	4.4	4.7

*評価に対するコメント

小児看護学実習担当教員

回収率は73.3%と高く、各項目の平均は5段階中4.4～4.9とおおむね良好であった。実習内容や進行への肯定的評価が多く、一定の教育的効果が認められたと考えられた。一方で、課題提出のタイミングのばらつきや自主学習時間の活用に関する指摘が確認された。今後は、学生の多様な理解度や負担感に配慮した授業設計を検討したい。

科目名：在宅看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：60 配付数：60 回収数：30 回収率：50.0%

*評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.2	4.3	4.1	4.5	4.5	4.4	4.3	4.6	4.6	4.4	4.4

*評価に対するコメント

在宅看護学実習担当教員

在宅看護学実習では、訪問看護の利用者宅にお邪魔しその方の「暮らし」を見ることができたと思います。その方の思いや多様な価値観に触れることで、望む暮らしについて考えることができていました。在宅看護学実習での学びを今後の看護に活かして行ってください。実習お疲れさまでした。